

あした  
選挙  
行く？

第3号

## 令和4年執行の杉並区長選挙の結果について

令和4年に杉並区長選挙が行われました。

この選挙での結果は、1票の大切さを改めて感じるものでした。

というのも、区長選挙には3名が立候補し、

最終的に獲得票数1番目と2番目の候補者の差が76,743票と76,556票という

187票の僅差で当選者が決まったのです。

では、この杉並区長選挙での若者の投票率はどれくらいだったか知っていますか？

18歳の投票率は杉並区全体の投票率(37.52%)を上回る39.94%でしたが、

19歳になると27.38%となり、

さらに20代になると20.28%へと投票率は急降下をしてしまいます。

18歳の時には関心のあった選挙。

時間が経つと関心のなくなる選挙。

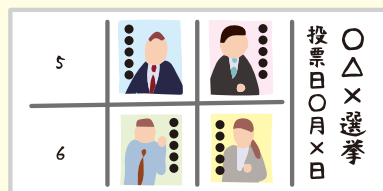
覚えていてほしいこと。

それは、選挙の結果であなたの社会は大きく変わります。

選挙へ行くことに遅いことはありません。

その1票で明日は変わる。

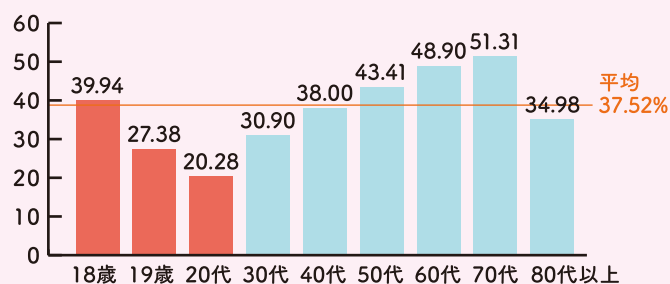
次の選挙で届けよう、若者の思い。



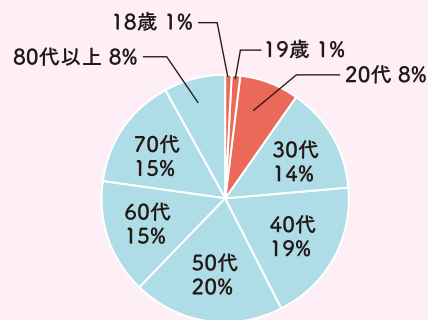
### 令和4年杉並区長選挙のデータ

#### ◆年代別投票率

※当日有権者数 472,619人  
投票者数 177,312人



#### ◆すべての投票者数に占める年代別投票者数の割合



Kaori Ito

ミラーハートで  
選挙を楽しむ！

女子大生、区長選立候補者へ  
突撃インタビュー！



あなたは、投票へ行くときに候補者の情報をどのように集めていますか？街の掲示板に貼り出されるポスター、候補者の街頭演説、政策や候補者のプロフィールなどが掲載された選挙公報、インターネットでの選挙運動。このように、いわゆる“投票される側”から発信される情報にはさまざまなかたちで触れることができますが、“投票する側”が主体的にその情報を引き出すような例はほとんどありません。

そんな中、令和4年6月19日に行われた杉並区長選挙では、立候補した全候補者に現役大学生が直接インタビューを行い、その動画やテキストがインターネット上に公開されて話題を呼びました。そして、このことが選挙への関心を高めたのか、投票率が前回よりも5ポイント上がり、結果的に僅差で新区長が誕生するという結果になりました。今回は、そのインタビューを敢行した東京女子大学(杉並区善福寺)の伊藤花織さんに、経緯や経験する前と後での意識の変化についてなど、貴重な話を伺いました。選挙を自分ごととして考え、行動に移すためのヒントが、ここにあります。



SPECIAL INTERVIEW

東京女子大学  
コミュニティ構想専攻  
伊藤 花織さん

# 女子大生、 区長選立候補者へ 突撃インタビュー!

ミューハー心で  
選挙を楽しむ!



## “大学生一人の行動も 何かを変える力はあるのかなって”

### —— インタビューのきっかけは？

もともと勉強を兼ねてあるまちづくり団体に参加していて、4月上旬頃、区長選のタイミングで住民のまちづくりへの関心を高められないかということで、候補者インタビューをしようという話になりました。そこで「聞き手が大学生だと乗り気になってくれるのでは」と私に白羽の矢が立ち、私も「政治家に会える!」というミューハーな気持ちがあったので、応じることになりました。

### —— 候補者3人へのアポイントは？

投票日は6月19日。4月にインタビューをやろうと決めて、5月頃からアポをとりに始めました。新人の候補者は、選挙用チラシにメールアドレスが記載されていたので、そこにメールしました。ただ、その内の一人は迷惑フォルダに入ってしまったみたいで、最初は気づいてもらえませんでした。なので、街頭演説をしているところに「すみません、インタビューさせてください」と突撃しました(笑)。それが6月10日頃です。現職の候補者は、公になっているメールアドレスがなく、区の秘書課に電話して選挙の担当者を教えてもらい、やりとりしました。まちづくり関係の授業で商店街の方にアポをとってヒアリングすることもあったので、そうしたことも役に立ちました。なんとか公示日までに団体のWEBサイトやYouTubeにアップしたくて、バタバタでしたが、スケジュールも自分で考えて動きました。

### —— 候補者への質問項目は？

周囲に相談して、聞く順番を意識すると相手も警戒心なく色々話してくれるかもしれない、慎重にいくことが大切、などと教えてもらいました。団体で区政の問題点などは話し合っていたので、今回の選挙の争点になりそうなことはだいたいわかっていました。そこに自分が住んで体感してきたことを踏まえて作りました。

### —— インタビューするに際して、留意したことは？

自分と政治との間をどれだけ詰めるかというのは意識しました。私の同世代は政治以外のことでいっぱいいなんですけど、放置しているといつの間にかとんでもないことが起きちゃうんじゃないか、自分の好きなものとかが今のままではいられなくなってしまうんじゃないか。そうになってしまう前に、政治を遠い出来事として考えるんじゃなくて、自分の生活の一部なんだ、自分ごとなんだということをわかっておいてもらいたいので、自分が主語になるように心がけました。「あの人が困ってます」とかだと、説得力がないんですね。あとは、選挙管理委員会にも確認をしました。HPへの公開日など注意する点がいくつかあるので、事前に問い合わせる必要性もありました。

### —— インタビューしてみて、気づいたことは？

政治家は私みたいな一般人としゃべるのも仕事なんだ、という大きな発見がありました。今までは、自分が政治の対象になるという感覚がなくて。生活保護とかももらっ

てないし、困っていることがたくさんあるわけでもなかったんですけど、3人と話し終わって、私の意見を拾ってくれるのが政治なのか、という実感がありました。例えば、家賃や学費が高いということを話したあと、候補者が街頭演説の中で「学生さんが家賃が高くて困っています」と言ってくれているのを聞いたとき、自分のことが政治の一部になったんだな、と。それから、最後の質問(「選挙に関心のない若者に一言ください」)に対しては、みなさん「選挙に行こう」と言ってくれるかなと思っていたんですけど、ほとんどそうは言ってくれませんでした。若者の政治参加の少なさにはそれぞれに異なる解釈があることに気がきました。

### —— 記事を読んだりYou Tubeを観たりした周囲の反応は？

団体のみんなが広報を頑張ってくださいって、いろんなお店にQRコードが書かれた紙を置いてくれたり、別の団体の方たちがチラシにそれを差し込んでくれたりしました。雑誌のライターさんがTwitterで取り上げてくださったりもして、いろいろな広がりがありました。女子大生がインタビュー、というのがキャッチーだったみたいです。反響としては、このままだとやばい、と感じた友達がありました。今までこんな人が政治やってたんだ、とか、この人だと希望を感じるね、とか、リアルな感情を伝えてくれました。それは良かったですね。

### —— 終えてみて、全体的な感想は？

インタビューする前は、選挙には絶望しかありませんでした。人生で初めての選挙は地元の市長選だったんですけど、私が投票した人は結構な差で落選してしまい、私が一票を入れても意味があるのかな、と思っていました。でも今回の区長選は僅差でしたし、私が発信をしなかったらもっと結果も違ったのかなと思うと…。一介の大学生が話を聞きに行っただけなのに、これを見て考え直した人も

いるのかなと思うと、大学生一人の行動も何かを変える力はあるのかなって。本当にやって良かった



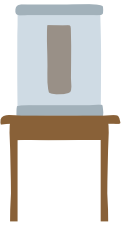
インタビューはまちづくり団体のWEBサイトに投票日の6日前から掲載



たです。今後も年長者としゃべるのが怖いと思うこともなさそうですし(笑)。

### —— 同世代に向けて、何かメッセージを

選挙公報だけじゃなにもわからないです。みんな、良さそうなことしか言わないじゃないですか。なので、自分の観点を持って誰に投票すべきか、探しに行けるといいなと思います。私みたいに、メールを送ってアポをとってインタビューする、とかまでやらなくても、例えば街頭演説を10分聞いてみるだけで、その人の話し方や周りにどんな人がいるかを理解することができます。そうすると、スーツを着てる男性しかいないとか、すぐに輪に入れそうだなとか、そういうことに気づき、選挙公報の紙だけではわからない、雰囲気をつかむことができます。なので、まずは街頭演説に行ってみよう、と言いたいですね。





# 選挙について話そう

at TOKYO WOMAN'S CHRISTIAN UNIVERSITY

伊藤花織さんに話を聞いた後は、今度は彼女の友人たちにも集ってもらいました。選挙をテーマにさまざまな意見を頂戴したのですが、留学生が二人いたことで、それぞれの国の選挙事情が話題が展開。韓国と台湾では、家族と政治の話をしたり、一緒に選挙に行ったりするのが当たり前で、同じアジアでも日本とは大きく文化が異なるということが見えてきました。それでも、若者が選挙に向かう本質がなにかということは、共通するものがありました。



# 女子大生たちの選挙観

まずは肩慣らしに、「選挙」に対してどんなイメージを持っていたか、一言ずつ話してもらうことから始めました。伊藤さんは「最初は絶望感しかなかった」とインタビューで答えていましたが、さて、他のみなさんはどうでしょうか。

**大谷** 自分には関係ないものだと思っていました。結果が僅差になるなら私の一票も影響は大きいと思いますけれど、一つの政党が圧倒的に勝ったりすることも多いので、私が投じたところであまり関係ないのかなと。

**富高** 私も選挙は他人事みたいなイメージを持っていました。自分の地元の選挙でも、現市長が再選されたり立候補者もなかなか変わらない状況で、そこで自分の一票で街が変わるのか。イメージが湧かなかったです。

**キム** 私の場合は、未来の私の生活がどうやって変化していくか、そのつながりを考えるものだと思います。

**リ** 立候補する人が国民・市民に対して自分の考え方を示す方法だと考えています。

大谷さんと富高さんは伊藤さんと似て冷めたイメージを持っていた一方、留学生のキムさんとリさんはポジティブに捉えていました。この時点でも、国の違いによる意識の差が少し見え隠れしている気がします。続いて、投票をする際に何か決めていることがあるかどうか聞いてみると…

**伊藤** その人が選挙中に何を言っているかより、これまでどこで何をしてきた人なのか、現職議員なら議会でどうしゃべり方をしているか、どんな質問をしているか、そういうところまでチェックして考えるようになりました。

**大谷** 経歴は重視しています。公約も、聞きはしますが理想でしかないです。経歴にその人の生き方とか考え方が表れているのかな、と。

**富高** 私は、自分の身近な問題に公約で向き合っている人を選ぶようにしています。女性が働きやすい場作りとか、そういうことを言うてる人に投票したいです。

**キム** 大統領選挙と地方選挙ではスタンスが違います。大統領選挙のときは、税金の問題とかマイノリティの問題とか、関心のあることへの向き合い方で決めています。地方選挙のときは、任期内に直接自分が支援されることがあるのか、実際にそれを行うことができるのかを見ます。

**リ** 私も同じで、大統領選挙と地方選挙で違います。大統領選挙の場合はテレビなどで政策を比較して考えます。

ここで、キムさんとリさんの発言から、韓国の大統領選挙と台湾の総統選挙が直接選挙であり、日本とは制度が異なるという事実で改めて直面します。その流れで、自然と各国の若者の選挙に対する意識の差に話題が転じていきました。

※2022年3月9日執行 韓国大統領選挙の投票率は77.1%  
 ※2020年1月11日執行 台湾総統選挙の投票率は74.9%

**キム** 選挙の日になると、投票所のスタンプを手の甲に押しつけてInstagramのストーリーにのせて、投票に行ったことをアピールするのが当たり前になっています（※韓国では候補者名が印刷された投票用紙にスタンプを押して投票する形式）。親や親戚も、みんなそうやって写真を撮るんです。



**リ** 私の周りの友達も政治には関心を持っていて、選挙には必ず行きます。例えば同性婚を巡る投票のときも、反対の人も賛成の人も選挙前にSNSにそのことを投稿していました。

**キム** だから、伊藤さんが街頭演説に行ったことをストーリーにのせていたのですが、日本人でこういうことをやる人を初めて見たので少し驚きました。韓国では当たり前ですが。

**伊藤** そうか(笑)。でも日本でもそういうことをやって、プレッシャーにしていけないですね。Instagramにのせていける。みんな行ってるのに私だけ行ってない、と思わせるような。同調圧力で(笑)。

**キム** 他人のストーリーを見ると「そうだ、選挙は今日からだ。私も明日行こう」という気になります。たしかにプレッシャーはありますね。友達はもう選挙に行ってる、でも私はまだ行ってない、みたいな。



選挙の仕組みは違っても、若者たちは、新聞・テレビなどのマスメディアや行政のPRより、友人のSNSに敏感に反応する。この感覚は万国共通なのかもしれません。でも日本の場合、そこで最初の発信者になるのが難しい。国民性などによって、積極的に選挙のことを口にするのはハードルが高いと思いがちです。

**伊藤** 私も今までは抵抗があったんですけど、街頭演説に行って「推し」の候補者とのツーショット写真をSNSにあげていたら、「伊藤さん、楽しそう!ちょっと次に誰に入れたらいいかわからないから相談に乗って」と頼まれたことがありました。こちらが楽しんでいたらもっと話しやすくなるかもしれないですね。

それでもそのハードルを乗り越えていくには、楽しむことが大事——SNSでは、発信者が楽しそうに振る舞っているとダイレクトに伝わるものがあります。また、先のインタビューで伊藤さんは「ミーハー」な心を持って区長選に向き合ったと言っています。若者の投票への関心を高めていくには、まずはこのあたりがキーワードになってきそうです。

最後は、選挙管理委員会が行う啓発事業のヒントを探るべく、いくつか質問を投げかけてみました。定番の配布物であるティッシュの代わりに、マスクやお菓子、スマホの充電器などが良いのではとアイデアが飛び交い、また、選挙期間中にならなかたちで公開討論会をやるとしたら、と話を振ると、ゲームアプリやスタンプラリーのスタイルを取り入れたフェス感があるものだと出かけようと思うはず、と具体的なイベントの手法が提案されました。やはりここでも、楽しむこと・楽しませることを前提に選挙を考えることが重要なのだと、みなさんから教えられました。



富高 千尋さん (コミュニティ構想専攻)

東京女子大学のみなさん

大谷 彩音さん (コミュニティ構想専攻)

キム ミンソルさん (国際関係専攻)

伊藤 花織さん (コミュニティ構想専攻)

リ イセンさん (コミュニケーション専攻)

参加者募集中!

# あなたも選挙サポーターに なってみませんか?



選挙サポーターとは若い方々の視点で  
選挙啓発を行う若者のボランティアです。

選挙に関わる活動してみたい方、選挙のことをもっと  
知ってみたい方、この機会にぜひご参加ください!



詳しくはこちらから

## あした選挙行く? 第3号

令和5年2月

企画・発行：杉並区選挙管理委員会

協力：杉並区明るい選挙推進協議会・杉並区明るい選挙推進委員・杉並区選挙サポーター・東京女子大学

制作：NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー

◎問合せ先

杉並区選挙管理委員会事務局

〒166-8570 東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号 TEL：03-3312-2111